

「第二次世界大戦中の太田川安野発電所建設中国人等強制労働の現地学習」

社民党広島県連合第4回ユース活動・学習会（安芸太田町 斉藤健三）



10月24日（土）10：00 現地の安芸太田町坪野「安野中国人受難之碑」前の中電安野発電所前に県内各地から13名が参加。

この現地学習会は、社民党の「全国ユース合宿」が広島県開催予定のために、事前に現地学習を行うものです。先のアジア・太平洋戦争で敗戦となり、原爆による被害と共に「軍都広島」の加害についても知ろうとするものです。

6月13日第3回現地学習では「陸軍の島・金輪島」の戦争遺構、被爆者にとっては「悲しみの地」を訪れました。

第4回目の今回も好天になり、「継承する会」川原洋子さんを講師に現地学習をしました。また、中電社員に中電施設内までご案内いただき、併せてお礼申し上げます。

川原さんには、事前に資料「フィールドワーク、安野発電所への中国人強制連行・中国人被爆の歴史を歩く」をいただき、事前に知識を持つことができました。

「西松建設との和解までの道のりは、1990年から始まり、1998年からの裁判闘争は、2004年高裁逆転勝訴、2007年最高裁判決逆転敗訴に異例の付言、2009年和解成立。この間の訪中、日中での聞き取り調査、ピラマキ、街宣、株主総会での発言等々、想像を絶する取り組みに改めて敬意を表します。また、西松安野友好基金和解事業の記念碑建立や訪日活動（故地参観）

を引き継がれ「広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会」で運動が継続されています。社民党とすれば「継承する会」に現地の党员を中心に関わっていければと考えています。

まず、川原さんから「安野 中国人受難之碑」前で、碑建立の歴史と意義の説明を受けた。その後、発電用の導水トンネルまで上がり中電社員から説明を受けた。60mほどの落差はわずかな距離だが、メンバーにとっては息の切れる難登山？であった（日常の運動不足を反省！）。

現地での全行程2時間半の予定であったが時間がかかったため、津浪収容所跡は見ずに、香草収容所跡とトロッコ事故現場を見た。

（朝鮮人が導水管トンネルの掘削機を扱い、中国人は碎石をトロッコで運ぶ作業に従事）、16歳の少年はトロッコもろとも崖下に転落、顔は血だらけ目には砂が入り治療を受けないまま、言葉に言い表せない激しい痛みのため、右の眼球を自分の両手で押し潰し、血と膿が沢山出て少し痛みが和らいだが両目失明したという現場に行った。人間扱いをしなかった例の一つであり、少年の一生を困難にしたことは言葉に言い表せないものがあるだろうと思うし、私自身も人間として深い責任を感じるものです。

発電所建設のために国策で強制連行された360人。わずか1年で29人が死亡（原爆死5人を含む）の現実は、人間扱いをしない労働・生活の結果であり、戦後も国・企業が責任をとらない状況は、旧安倍政権の改竄・隠蔽など現在も無責任状態が続いていることに表れているのではないのでしょうか。私たちの運動が不足していることの反映でもあり肝に命じて取り組んでいきます。

継承する会の取り組みは、これからの、民間



香草収容所跡地の横



土居取水場

による「真の日中関係樹立」が国同士の先導役となり得るものと考えます。少しでも役立てるよう今後もかかわって行きます。

※参加者の感想

Tさん—

・大学で関東大震災における朝鮮人大虐殺の研究・展示発表、南京大虐殺の研究・展示を続け卒業しました。その活動の中で朝鮮人・中国人の日本への強制連行を学びました。今日、強制連行された方々が働かされた現場を一番詳しい川原さんに案内・説明をいただき誠に感銘深いことでした。社民党が「合流」という名の「解党」を求められているとき、自分の原点を見つめなおす機会を与えて下さったことに重ねてお礼を申し上げます。皆様と共に歩いていく確信も得ました。

Kさん—

安芸太田町（旧加計町）・隣の北広島町でこんな歴史があること事を初めて知った。来て良かった。

その他—

「今日は来て良かった！」の声が多かったです。

朝鮮人工事犠牲者慰霊碑も訪問

昼食後、一部の人で安野発電所上流の北広島町芸北地域の王泊ダムの高台にあるダム建設工事犠牲者慰霊碑・慰霊塔を見学しました。日本が日中戦争へ向かう戦争準備態勢構築のための電力供給設備の一環として、広島電気(中国電力の前身)が、1933年から34年にかけて建設した下流部の水力発電所用のダムで34年のダイナマイト爆発事故により25人が死亡したが、その内14人が朝鮮人であった。歴史的事実を直視すれば、侵略戦争や植民地支配を正当化するために、民族差別を作り利用して如何に過酷な労働現場を生み出したかという事を知ることができる。

この構造は、今、進められている「中国・韓国・北朝鮮」を敵視し過剰に危機感をあおり、国内では世界第5位軍事力の自衛隊をほおかぶりし、福祉は切捨て、消費税は上げ、米国からの戦艦等の爆買いや、新たなステージとして「敵基地攻撃能力」の保持が進められようとしているのは、ふたたび繰り返す道ではないかと懸念しています。



王泊ダム建設工事犠牲者慰霊碑・慰霊塔